

丸山プログラミング塾

プログラムが作れる プログラマーを 目指すために

～これからプログラミングをはじめる方へ捧げます～

丸山プログラミング塾

2013/04/02

内容

プログラムを作る者はプログラマーと呼ぶ.....	3
プログラムは道具なのだ.....	4
目先の技術はそれなりに.....	5
「結果を出す」この気持ちを忘れずに.....	6
向き・不向きを知る.....	7
見えないデジタルデータが全ての基本（コア概念）.....	8
プログラムの基本は7つのキーワードで作られる.....	9
プログラマーに向いていなくても、ここまでならできる.....	10
ロジックが難しいと感じる人とは.....	11
点と線から見えない線へ.....	12
言語毎の世界観.....	13
外部から見た内部、内部から見た外部.....	14
用語や概念をイメージ（見える）化する.....	15
設計は誰のためにある？.....	16

プログラムが作れるプログラマーを目指すために

プログラムを作る者はプログラマーと呼ぶ

動く、使えるプログラムを一から作れる人のことを「プログラマー」と呼ぶ。たとえ、どんなに小さなプログラムでも、高度な技術を使っていなくても、高機能でなくても使えるプログラムならいいのだ。

それとは対照的に、プログラムコードを書くだけの人を「コーダー」と呼ぶが、これは職業的差別用語だ。なぜなら、プログラムを書くことは、動く使えるプログラムを作ることにあるのに、作るための思考を放棄していると見なされるからだ。

私は初心者です。

だから・・・何？

自分に対する甘えでしかない。

目的や結果を想像しないで、基礎から学習すると今何のためにやっているのか、どうするための学習なのか…考えなければ、見えるはずもない。

プログラミングに答えは存在しない。

ある仕事上の問題をプログラムで解決する・・・これがプログラミングだ。

どうやって？

これがプログラマーの仕事だ。その手段、どこまで、どのように行うかは自分で考えなければならない。

大切なことは、考えてばかりいても無駄だということ。考えて、作って、使って、フィードバックを繰り返してプログラムが使えるものに仕上げる気持ちを持つことがプログラマーとしての第一歩だ。